

《専門教育科目》

科目名	こどもと健康	科目ナンバリング	509ST1011A
担当者氏名	日坂 歩都恵	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選択
		開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

領域「健康」の指導は、子どもの心身の発達や基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達の専門的事項についての知識や技能を身に付ける。子どもの心身の健康状態を把握する方法、病気とその予防等の安全管理や安全教育、運動発達の理解をする。演習形式により、保育者としての、子どもの健康を守り育てるために必要な知識と技能を身に付ける。

《授業外学習》

・テキストを指定した範囲や配布資料は必ず通読してくる。健康的な基本的な生活に関心を持ち、指定した語句や項目について調べてくる。

《テキスト》

『保育者をめざすあなたへ—子どもと健康— 第3版』 勝木洋子監修 大和晴行 日坂歩都恵編 みらい 2025年

《学習状況・理解度の確認》

・授業内課題として小レポートを提出し、返却し、授業の理解度を確認する。

《参考図書》

文部科学省 (2018) 『幼稚園教育要領』、厚生労働省 (2018) 『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省 (2018) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』及び解説書

《備考》

・プレゼンテーション、ディスカッション、グループ討議を行う。実務経験者（保育士資格、幼稚園教諭免許有り。幼稚園勤務歴有り）である。Children and Health

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	乳幼児の心身の発達に関する現状と課題を理解し、健康の観点から指導の在り方を理解する。
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	乳幼児の基本的な生活習慣、運動発達などの意義を理解し、自主的な健康の保持増進を促す支援について理解する。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する	幼稚園教育要領や保育所保育指針等の領域「健康」のねらいと内容等について理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60%
小テスト	0%
レポート	0%
発表・実技	20%
授業内課題	20%
その他()	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	子どもの健康とは	健康の定義、乳幼児期の健康の意義を理解	テキスト通読 p. 16～p. 31	45分
2	領域「健康」のねらい・内容	保育内容における領域「健康」のねらいと内容	テキスト通読 p. 62～p. 76	45分
3	子どもの身体的発達の理解 (体格)	子どもの体格との特徴や生理機能	テキスト通読 p. 18～p. 21	45分
4	子どもの身体的発達の理解 (器官等)	子どもの器官等の発育・発達の特徴	テキスト通読 p. 22～p. 35	45分
5	子どもの基本的な生活習慣 (睡眠)	基本的習慣の自立の重要性 (睡眠)	テキスト通読 p. 85～p. 88	45分
6	子どもの基本的な生活習慣 (食事・排泄)	基本的習慣の自立の重要性 (食事・排泄)	テキスト通読 p. 89～p. 91	45分
7	子どもの基本的な生活習慣 (清潔・衣服の着脱)	基本的習慣の自立の重要性 (清潔・衣服の着脱)	テキスト通読 p. 93～p. 94	45分
8	日常上生活における運動	社会の変化と生活の中の動きの経験、またその配慮の基本的な考え方	テキスト通読 p. 114～p. 124	45分
9	遊びとしての運動	子どもにとっての遊びとして行う運動の在り方	テキスト通読 p. 126～p. 133	60分
10	食育と栄養	食育のねらいと内容、食育の実践	テキスト通読 p. 101～p. 112	60分
11	子どもの感染症	保育における感染症の予防と対応	テキスト通読 p. 183～p. 186	90分
12	子どもの事故や病気	子どもの事故や病気等のその対応	テキスト通読 p. 179～p. 181	45分
13	安全保育と危機管理	子どもにおける安全保育と危機管理	テキスト通読 p. 187～p. 189	45分
14	子どもの発育・発達の測定法の活用	子どもの体格・運動能力測定の方法と評価	プリント通読	45分
15	学習のまとめと振り返り	現在の子どもの健康課題と展望	テキスト通読 p. 190～p. 194	60分

《専門教育科目》

科目名	こどもと人間関係	科目ナンバリング	509ST1021A
担当者氏名	磯野 久美子	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選択
		開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

現代社会の子どもを取り巻くさまざまな課題について学び、保育の場で保障されるべき乳幼児期の人間関係の育ちについて理解を深める。領域「人間関係」のねらいと内容を踏まえ、乳幼児期の人間関係の発達、環境や遊びを通してどのように促されていくのかを具体的な事例等から学ぶ。

《授業外学習》

テキストや参考図書の該当箇所を読み、領域「人間関係」の内容を理解するよう努める。

《テキスト》

『ワークで学ぶ 保育内容「人間関係」』菊地篤子[著]みらい2022

《学習状況・理解度の確認》

授業ごとに課題を提出し、その内容から学びの確認をする。

《参考図書》

文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

《備考》

・科目担当者は、幼稚園教諭及び、保育士資格を持つ実務経験者である。 ・ディスカッション、グループワークを行う。 ・Children and Relationships

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	乳幼児期の遊びや生活の中で育つ、人と関わる力の発達について説明できる。
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	人と関わる力を養う領域「人間関係」の基礎的知識や技能の習得を確認する。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を	保育における人間関係にかかわる指導のあり方について理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0%
小テスト	0%
レポート	20%
発表・実技	30%
授業内課題	50%
その他()	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の全体像を把握し、到達目標を理解する。	テキスト・資料の確認	45分
2	現代社会と人間関係	子どもを取り巻く今日の状況や課題を踏まえ、子どもと人間関係の現状を学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
3	領域「人間関係」とは	領域「人間関係」のねらいと内容について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
4	乳幼児の発達と人間関係①	乳児の育ちと人間関係のあり方について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
5	乳幼児の発達と人間関係②	1歳以上3歳未満児の育ちと人間関係のあり方について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
6	乳幼児の発達と人間関係③	3歳以上児の育ちと人間関係のあり方について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
7	遊びの中で育つ人間関係	乳幼児期における遊びを通じた人間関係について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
8	環境と人間関係	子どもの人と関わる力の育ちについてディスカッションを交えながら考察する。	テキスト・資料の確認	45分
9	自立心や協同性の育ち	子どもの自立心や協同性はどのような体験を通して育つのかを学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
10	道徳性や規範意識の育ち	子どもの道徳性や規範意識はどのような体験を通して育つのかを学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
11	保育者と保護者の人間関係	保護者との人間関係の構築について考え、よりよい支援と連携のあり方を学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
12	人間関係のひろがり	地域の人々との関わりや幼小連携における人間関係の育ちについて学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
13	保育者が紡ぐ人間関係	保育者自身の人間関係と子ども理解について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
14	人間関係を育む	子どもの人間関係を育むとはどのようなことなのか、ディスカッションを交えながら考察する。	テキスト・資料の確認	45分
15	振り返り、まとめ	子どもの人間関係を育むとはどのようなことなのか、授業を振り返り、考察する。	全体の振り返り	45分

《専門教育科目》

科目名	こどもと環境	科目ナンバリング	509ST1031A
担当者氏名	高畑 芳美	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選択
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

幼稚園教育要領等に示された保育・幼児教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらいと内容を通し、乳幼児の身近な環境の基本的な捉え方を理解する。子どもが主体的に環境とかがわる力を育てるという視点から、演習を通じて環境の意味や特性、保育者の役割について考える。

《授業外学習》

資料、参考書、授業時に配布されたプリントは毎回授業時に持参すること。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要な資料は配布する。

《学習状況・理解度の確認》

・分からないことは授業内、または授業終了後に随時質問を受けつける。
・課題については評価をした後、授業の中でフィードバックする。

《参考図書》

文部科学省(2018)『幼稚園教育要領』、厚生労働省(2018)『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省(2018)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

《備考》

・グループワークやディスカッションを行う。
・科目担当者は、実務経験者(保育園・幼稚園勤務経歴有り)である。
・Children and Environment

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	幼児を取り巻く環境について考える。
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	多様な幼児の環境と関わる力を育てるための保育者の役割を知る。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する	環境を通じた保育を実践する保育者の在り方を理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	20%
レポート	40%
発表・実技	40%
授業内課題	0%
その他()	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション：環境とは	本授業の概要と目標を理解し、授業方法や進め方について確認し、課題意識を持つ	環境について考える	45分
2	保育における子どもの環境	幼稚園と保育所の子どもの生活環境について考える	幼稚園教育要領・保育所保育	45分
3	領域「環境」のねらいと内容	5領域の全体構成と領域「環境」の理解、保育内容とのつながりを知る	幼稚園教育要領・保育所保育	45分
4	子どもが生活する保育環境	幼稚園の保育室を参観し、環境図を描く	保育環境図を描く	45分
5	子どもが遊ぶ保育環境	幼稚園の保育室にある遊具や教材について整理し、遊びに必要な環境を整理する	保育環境図を描く	45分
6	子どもと自然物とのかかわり	身の回りにある自然物を使って制作遊びをする	作品制作	60分
7	作品の展示と評価	各自の作品の発表と振り返り、子どもの鑑賞を促す環境について考える	発表と振り返り	45分
8	子どもと文字とのかかわり①	子どもが楽しめる文字を使った遊びを考える	作品制作	60分
9	子どもと文字のかかわり②	グループで考えた文字遊びの発表と振り返り	発表の振り返り	45分
10	自然とのかかわり	グループになり自然環境を探索するネイチャーゲームを行う	ネイチャーゲームについてまと	45分
11	子どもと環境教育	SDG s とは何か調べ、グループで発表し合う。	発表の振り返り	45分
12	社会とのかかわり①	地域・社会とのかかわりのなかで実践されているSDG s の取り組みをICTを使い、グループで調べる	情報収集	45分
13	社会とのかかわり②	様々な地域や園のSDG s の取り組みについて調べてきたことをワールドカフェ方式で発表する	収集した情報整理とまとめ	45分
14	世界の環境教育	もりのようちえんやレゾジョエミア教育等における環境教育について学ぶ	資料の整理	45分
15	現代保育の課題と領域「環境」、まとめ	多文化共生保育やインクルーシブ教育なども含め、今までの学びの確認をする	授業の振り返り	45分

《専門教育科目》

科目名	こどもと言葉	科目ナンバリング	509ST1041A
担当者氏名	石川 恵美	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選択
		開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

領域「言葉」の指導の基礎となる子どもが豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識及び技能を学ぶ。子どもが年齢に応じた「言葉」を獲得する意義と機能について理解し、保育者として子どもの言葉を引き出すため、視聴覚教材等ICTを活用し、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践について、演習を通じて授業を展開する。

《授業外学習》

子どもと関わる機会を作り、乳幼児期の子どもの「言葉」について興味を持ち、「言葉」の発達について理解を深めるように意識する。より多くの絵本に触れ、絵本のレパートリーを増やす。

《テキスト》

『新・保育と言葉』石上浩美編 嵯峨野書院 2022年

《学習状況・理解度の確認》

分からないことがあれば、授業終了後に質問を受け付ける。

《参考図書》

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』 他適宜、授業内で紹介する。

《備考》

視聴覚教材等ICTを活用した授業およびディスカッション・プレゼンテーション・グループワーク等のアクティブラーニングの要素を含む授業を展開する。保育実践教室で授業を実施する場合もある。担当者は、幼稚園教諭、保育士、幼稚園長、保育所長、教員、保育士のほか、

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	乳幼児の言葉の発達過程と、言葉の機能について説明できる。
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、子どもの発達のと合わせて説明できる。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する	子どもの発達における児童文化財の意義について理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	50%
小テスト	0%
レポート	20%
発表・実技	10%
授業内課題	20%
その他()	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	領域「言葉」のねらいと内容とは。絵本の読み聞かせの意義について考える。	テキスト通読	45分
2	保育の基本と言葉の獲得に関する領域「言葉」	保育内容「言葉」のねらいと内容を理解し、保育者の役割を知る。	テキスト通読	45分
3	乳児期の言葉の発達	乳児期の「言葉」の発達段階と他者との関わりを知る。乳児向けの絵本について学ぶ。	テキスト通読	45分
4	幼児期の言葉の発達①	幼児期の「言葉」の発達段階を知り、生活や遊びの中の「言葉」を理解する。幼児向けの絵本について学ぶ。	テキスト通読	45分
5	幼児期の言葉の発達②	話し言葉・書き言葉の獲得のプロセスについて学ぶ。	テキスト通読	45分
6	手段・道具としての言葉	言語的コミュニケーションとしての「言葉」を理解し実践する。オノマトペや動きを誘発する言葉の具体例について学ぶ。	テキスト通読	45分
7	言葉の獲得に関する領域「言葉」と他領域との関係①	身体機能の発達と「言葉」について学ぶ。知覚・認知機能の発達と「言葉」について学ぶ。	テキスト通読	45分
8	言葉の獲得に関する領域「言葉」と他領域との関係②	保育内容「言葉」と他の4領域との関係性について学ぶ。	テキスト通読	45分
9	言葉の獲得に関する領域「言葉」の指導計画と評価	指導計画の種類や内容及び評価について知り、保育の展開の仕方について学ぶ。	テキスト通読	45分
10	言葉に対する感覚を豊かにする実践の実際	子どもと楽しむ「言葉遊び」について考える。	「言葉遊び」について調べる	45分
11	言葉の遅れのある子ども等に対する「言葉」の支援①	言葉の遅れについて考える。発達障害について学ぶ。	テキスト通読	45分
12	言葉の遅れのある子ども等に対する「言葉」の支援②	言葉の遅れや発達障害の子どもに対する「言葉」の支援方法を知る。	テキスト通読	45分
13	「言葉」の世界を広げる児童文化財①	絵本・物語・紙芝居等の児童文化財の意義について学ぶ。	絵本の読み聞かせ練習	45分
14	「言葉」の世界を広げる児童文化財②	絵本・物語・紙芝居等の児童文化財を子どもに伝える際の留意点を学ぶ。	紙芝居の読み聞かせ練習	45分
15	学習のまとめと振り返り	授業の内容を振り返り、到達目標の達成度を確認する。	到達目標の達成度を確認する	45分

《専門教育科目》

科目名	こどもと表現	科目ナンバリング	509ST1051A
担当者氏名	半田 結	担当形態	オムニバス
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選択
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

子どもの表現は、他の領域と相互に関連しあい総合的に発達していくことをふまえながら、音楽・造形・身体などの表現領域を中心に、子どもの表現の姿やその発達の様子、感性や創造性を豊かにする様々な遊びや環境の構成などについて、演習を通じて実践的に学びます。子どもが表現することの喜びを感じ感性を磨いていけるように、授業では、諸感覚を通した様々な表現活動を通して、知識や技能、表現力を身につけます。

《授業外学習》

○ボランティアなどを通じて子どもと直接かかわる機会を持ちましょう
 ○音楽やダンス、パフォーマンス、演劇、美術などのアートに触れる機会をもちましょう

《テキスト》

松家まきこ・鈴木範之編『実践 心ふれあう子どもと表現』みらい、2022

《学習状況・理解度の確認》

毎回の授業で、学習内容の確認と次回授業への準備・予習課題があります。提出物や課題に対してはコメントや評価をし、必要な場合は再提出を求めます。定期試験は実施しません。

《参考図書》

参考書・参考資料等 文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』

《備考》

・授業は、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを取り入れて行います。・授業前には、manaba等、必ず確認するようにしてください。Children and Expressions

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	子どもの表現の姿やその発達を理解する。子どもの遊びや生活にみられる「表現」をとらえることができる。
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	音楽・造形・身体表現などの様々な表現の知識・技能を身につける。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め、より豊かな表現につなげていくことができる。様々な表現の知識・技能を身につけ、子どもが表現活動を展開させることのできる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0%
小テスト	0%
レポート	0%
発表・実技	40%
授業内課題	40%
その他（ ）	20%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション ～表現に出会う	領域「表現」と子どもの表現	テキストpp.12-30	45分
2	子どもの身体表現と発達①	全身を使って表現を楽しむ	テキストpp.77-83	45分
3	子どもの身体表現と発達②	イメージを広げて遊ぶ	テキストpp.69-75	45分
4	子どもの身体表現と発達③	身近にあるもので表現を引き出して遊ぶ①	テキストpp.85-92	45分
5	子どもの身体表現と発達④	身近にあるもので表現を引き出して遊ぶ②	テキストpp.94-99	45分
6	子どもの造形表現と発達①	素材との出会い①パスとクレヨン	テキストpp.100-106	45分
7	子どもの造形表現と発達②	素材との出会い②紙、絵具	テキストpp.107-111	45分
8	子どもの造形表現と発達③	身近にあるもので作る①枝や葉、木の実などの自然物	テキストpp.112-120	45分
9	子どもの造形表現と発達④	身近にあるもので作る②空き箱やペットボトルなどのリサイクル材	テキストpp.121-141	45分
10	子どもの音楽表現と発達①	「聴く」ことからはじまる・広がる表現の世界	テキストpp.13-101	45分
11	子どもの音楽表現と発達②	相互作用としての手遊びの役割と表現	テキストpp.41-52	45分
12	子どもの音楽表現と発達③	日本と世界の音楽と表現ーわらべうた、民族楽器	テキストpp.53-62	45分
13	子どもの音楽表現と発達④	様々な楽器による音楽遊びとアンサンブル表現	テキストpp.63-67	45分
14	いろいろな表現を取り入れた遊び	複数の表現領域を組み合わせた遊びを作る	他領域と組み合わせた遊びを考	45分
15	振り返りとまとめ	これまでの内容を振り返り、自分の表現の特徴や課題について振り返る	自分の表現の特徴や課題を理解	45分

《専門教育科目》

科目名	こどもとサイエンス（こどもと科学遊び）		科目ナンバリング	509ST1061A
担当者氏名	安部 洋一郎		担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選択	開講年次・開講期
				2 年 ・ II 期

《授業の概要》

幼稚園教諭や保育士にとっては、幼児が遊びに夢中になれるよう環境を構成し見守り幼児とともに活動することが求められる。本授業では学生の協働により様々な科学遊びを行う。遊びを通して学生自身が科学遊びを好きになり、幼児の遊びを支援する力を養うことを目指す。

《授業外学習》

準備・計画や片付けなど、科学遊びを行うために必要な活動を課外時間に行う。

《テキスト》

なし

《学習状況・理解度の確認》

授業内の活動にて十分な理解を示しているかどうかを評価する。

《参考図書》

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』

《備考》

Science for Children ・授業ではディスカッション、実習、グループワークを行う。 ・活動内容によっては汚れてもいい服装を準備する必要がある。 ・科目担当者は実務経験者（西宮市立公立小学校教員、西宮市立女子小中学校教員）である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	仲間と協力し合って活動を行い、楽しさを共有することができる。仲間と協働して実践の計画準備、実施、片づけを行う。
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	仲間と協働して実践の計画準備、実施、片づけを行い、活動を学びにつなげることができる。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を	子どもの科学性の芽生えを遊びにつなげる専門性を持ち、体系的に指導を行うことができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	50%
レポート	
発表・実技	25%
授業内課題	25%
その他（ ）	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	科学遊びとこどもの学び	オリエンテーション 科学遊びの意味を学ぶ	授業の振り返りを行う	90分
2	科学遊びの実践 1	こむぎねんど等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90分
3	科学遊びの実践 2	生き物さがし等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90分
4	科学遊びの実践 3	泥団子づくり等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90分
5	科学遊びの実践 4	磁石あそび等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90分
6	科学遊びの実践 5	顕微鏡等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90分
7	科学遊びの実践 6	ロケットづくり等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90分
8	科学遊びの実践 7	天体等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90分
9	科学遊びの実践 8	音のおもちゃ等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90分
10	科学遊びの実践 9	金属磨き等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90分
11	科学遊びの実践10	観察等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90分
12	科学遊びの実践11	葉脈標本等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90分
13	科学遊びの実践12	ちりめんモンスター等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90分
14	科学遊びの実践13	化石等を中心とした科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。	授業の振り返りを行う	90分
15	まとめ	活動を振り返り、改めて科学遊びの意味を学ぶ	授業の振り返りを行う	90分

《専門教育科目》

科目名	保育内容総論		科目ナンバリング	509ST10700
担当者氏名	日坂 歩都恵		担当形態	クラス分け
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選択
			開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

保育所や幼稚園等での生活全体を通して総合的に指導するという考え方を理解する。
 具体的な子どもの姿と関連づけながら、環境を構成し実践するために必要な知識・技能を身に付ける。
 現在の保育の課題を探り、今後、見通した保育の実践する力を養う。

《授業外学習》

○体験を通して、保育実践のあり方を理解する。
 ○授業で学んだことを振り返り、まとめておく。
 ○保育に関する専門図書や絵本等に関心を持ち、多くの書物を読む。

《テキスト》

小川圭子・日坂歩都恵・小林みどり編『保育実践につなぐ 保育内容総論』 みらい 2021年

《学習状況・理解度の確認》

レポート等の課題は提出、返却し、学生の理解度を確認する。

《参考図書》

文部科学省『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2018年、厚生労働省『保育勝保育指針』 フレーベル館 2018年、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 2018年

《備考》

○保育に役立つ演習や講義を中心に進める。プレゼンテーション、グループ討議、模擬保育を行う。実務経験者（幼稚園勤務歴有）である。Theory of Childcare Contents

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	子どもの発達や取り巻く環境を踏まえ、子どもの発達に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	幼稚園教育要領等を構造的に捉え、保育の全体的な構造を理解し、個々の事項の意義と相互の関係を理解する。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する	幼児の発達や行動特性等を踏まえたうえで、ねらいに沿った指導案を作成することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60%
小テスト	0%
レポート	0%
発表・実技	20%
授業内課題	20%
その他()	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	保育内容とは何か	保育内容とは何か、子どもの姿等から学ぶ。	テキストp.3～p.12通読	45分
2	保育内容の捉え方	保育所保育指針と幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が示す保育内容の構造を理解する。	テキストp.19～p.28通読	60分
3	子どもの理解と評価の考え方	保育の全体構造と保育内容や養護にかかわる保育内容、保育内容のとらえ方を理解する。	テキストp.33～p.45通読	60分
4	保育内容の実践	制作等を通し、「ねらい」及び「内容」について考える。	テキストp.40～p.59通読	60分
5	指導計画の作成の理解	保育の指導計画（部分保育）を作成する。	テキストp.53～p.68通読	60分
6	指導計画の作成の理解	保育の指導計画の振り返りと評価の視点を考える。	テキストp.53～p.68通読	60分
7	遊びや生活と保育内容	遊びや生活の中で何が育つのか考え理解する。	テキストp.73～p.85通読	60分
8	養護と教育が一体的に展開する保育	養護と教育が一体的に展開する保育を学ぶ。	テキストp.91～p.101通読	60分
9	子どもの主体的を尊重する保育	主体性を尊重した保育について学ぶ。	テキストp.105～p.115通読	60分
10	環境を通して行う保育	子どもの主体的な育ちを支える環境のあり方を理解する。	テキストp.121～p.136通読	60分
11	個と集団の育ちを支える保育	「個」と「集団」の育ちを支える保育者に求められるものについて学ぶ。	テキストp.141～p.152通読	60分
12	家庭や地域との連携を踏まえた保育	家庭や地域と園の連携が求められる背景やその意味について理解する。	テキストp.157～p.169通読	60分
13	小学校への接続をふまえた保育	小学校教育との接続にあたっての留意事項について理解する。	テキストp.173～p.178通読	60分
14	保育の多様な展開	長時間保育、特別な配慮を要する子どもの保育や多文化共生保育を理解する。	テキストp.193～p.207通読	60分
15	保育内容の歴史の変遷と社会的背景	保育内容の歴史をみながら、保育内容の意義とあり方を理解する。	テキストp.211～p.227通読	60分

《専門教育科目》

科目名	保育内容「健康」の指導法		科目ナンバリング	509ST1081A
担当者氏名	日坂 歩都恵		担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選択
			開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

領域「健康」の指導に関する幼児の心身の発達や基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達等の専門的事項についての知識や技能を身につける。幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について背景にある専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発育・発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。

《テキスト》

『保育者をめざすあなたへ 子どもと健康 第3版』勝木洋子監修 大和晴行 日坂歩都恵編著 みらい 2025年

《参考図書》

『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』 内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館 2018

《授業外学習》

テキストを範囲指定した所や配布資料は必ず通読をしてくる。健康的な基本的な生活に関心を持ち、指定した語句や項目について調べてくる。保育施設等に出向き、地域近隣における乳幼児の行動や遊びの内容、人との関わり等の様子を観察する。

《学習状況・理解度の確認》

課題提出はその内容の理解ができていないか確認する。分からないことは毎授業終了時などで質問を受けつける。

《備考》

学生と応答の関係で授業を展開し、一人一人の学習意欲を高める。グループワークやディスカッションによる授業もある。幼稚園勤務歴のある実務経験者である。Topics in Early Childhood Care and Education (2011)

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	乳幼児の心身の発達に関する現状と課題を理解し、健康の観点から指導の在り方を理解する。
○	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	乳幼児の基本的な生活習慣、運動発達などの意義を理解し、自主的な健康の保持を促す支援について理解する。
◎	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	子どもの発達や行動特性等を踏まえたうえで、主に領域「健康」のねらいに沿った指導案を作成することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60%
小テスト	0%
レポート	0%
発表・実技	20%
授業内課題	20%
その他()	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション 子どもの健康と環境	授業概要、授業方法、評価方法などの説明 健康に関する世界の流れや人々の権利と健康について学ぶ。	テキスト通読 p. 8～p. 12	45分
2	保育内容・領域「健康」	保育内容の全体構成と領域「健康」を理解する	テキスト通読 p. 16～p. 24	45分
3	保育内容・領域「健康」の展開	乳児・1歳以上3歳未満児、3歳以上児における領域「健康」の展開について理解する	テキスト通読 p. 30～p. 43	45分
4	保育の過程	保育の過程、保育の計画、指導計画の作成について理解する	テキスト通読 p. 44～p. 52	60分
5	乳児（0歳児）の実践	乳児（0歳児）の心地よい生活、遊びへのかかわり等の実践を学ぶ	テキスト通読 p. 54～p. 61	45分
6	1歳以上3歳未満児の実践	1歳以上3歳未満児の生活リズム、全身を使った遊びのかかわりについて学ぶ。	テキスト通読 p. 62～p. 69	45分
7	基本的な生活習慣を身につける実践	園生活、食、清潔に関するかかわりについて学ぶ。	テキスト通読 p. 70～p. 78	45分
8	さまざまな遊びの実践	運動遊びや群れ遊びの重要性を理解する。	テキスト通読 p. 80～p. 95	45分
9	環境とかかわりながら遊ぶ実践	環境とかかわって遊ぶことの重要性について理解する。	テキスト通読 p. 98～p. 110	45分
10	指導計画の作成	指導案作成の考え方とポイント、活動内容や環境構成を学ぶ。	テキスト通読 p. 44～p. 51	45分
11	模擬保育と評価	模擬保育の振り返り、保育の課題について学ぶ。	模擬保育準備・評価	60分
12	子どもの事故や病気	事故や病気等の対応、大きな事故や小さな事故の対応について理解する。	テキスト通読 p. 120～p. 128	45分
13	感染症の予防と対応	保育における感染症の予防と対応について学ぶ。	資料	45分
14	安全教育と保健計画	保育における安全教育と安全管理について学ぶ。	テキスト通読 p. 120～p. 126	45分
15	子どもの健康の今後の課題と展望	学修のまとめ	全体的な学修の振り返り	90分

《専門教育科目》

科目名	保育内容「人間関係」の指導法		科目ナンバリング	509ST1091A
担当者氏名	高畑 芳美		担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選択
			開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

領域「人間関係」がめざすものについて学ぶとともに、人とのかわりを育む保育について、自分、子ども、教材の3つの視点から学ぶ。また、模擬保育や事例検討、カンファレンスを通じてより良い保育の在り方について考察し、幼児を多面的に理解しながら実践力を身につける。

《授業外学習》

人とのかわりをはぐくむ遊びについて自分なりに調べ、模擬保育の準備をしておくこと。
テキストの事例を読み、自身の子どもへの理解のあり方やかわり方について考察すること。

《テキスト》

保育内容指導法<人間関係>—確かな実践力を身に付ける— 浅井拓久也 編著 萌文書林

《学習状況・理解度の確認》

授業内のグループカンファレンスへの参加態度および、振り返りシート・課題の内容を確認し、フィードバックする。

《参考図書》

幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領

《備考》

・グループワークや模擬保育を行う。積極的・主体的な授業への参加を意識すること。・担当者は公立幼稚園に勤務歴のある実務経験者。
・Instructional Methods in Early Childhood Care and Education (Ed. by Patricia M. Kagan)

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	幼児の発達や保育内容「人間関係」のねらいに基づく保育展開の重要性を理解し、実践することができる。
○	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	幼児を多面的に理解する力をつけ、よりよい保育の在り方を考察し、展開する。
◎	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	幼児の多様性を理解し、それぞれの幼児の人間関係を育むための保育を構想し展開できる力を身につける。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	20%
発表・実技	40%
授業内課題	40%
その他()	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	保育内容の指導方法の目的と意義	授業の目的や全体計画を把握し、理解する。	シラバスを確認する	45分
2	保育内容「人間関係」の目的と意義	保育内容「人間関係」のねらい及び内容を理解し、保育者の役割や心構えについて理解を深める。	幼稚園教育要領の該当部分通読	45分
3	0.1.2歳児の人と関わる力の育ちを考える	人と関わる力を育むふれあい遊びのもつ発達の意味を考え、0.1.2歳児の対人関係の育ちが捉えられるようにする。	0.1.2歳児の発達について復習	45分
4	3.4.5歳児の人と関わる力の育ちを考える	ルールのある遊びを通して育つ規範意識や道徳性など3.4.5歳児の対人関係の育ちが捉えられるようにする。	3.4.5歳児の発達について復習	45分
5	ケーススタディ	子どもの葛藤場面や特別な配慮を必要とする子どもの対人関係の育ちを読み取る力や支援方法を身に付ける。	観察記録の書き方の復讐	45分
6	保育内容「人間関係」を含む保育指導計画	保育内容「人間関係」を含む保育の展開と指導計画について理解する	特別支援の必要な子どもとは	45分
7	0.1.2歳児の指導案の作成	0.1.2歳児の保育指導案の作成ポイントや気を付ける点について理解する。	指導案の書き方のポイントを調	45分
8	3.4.5歳児の指導案の作成	3.4.5歳児の保育指導案の作成ポイントや気を付ける点について理解する。	指導案作成の留意点について調	45分
9	人と関わる力を育む遊びの教材を作成する1	子どもとのやりとり遊びを楽しむための教材を考える。	教材の案を考えておく	45分
10	人と関わる力を育む遊びの教材を作成する2	個人で考えた教材を作成する。	必要な教材準備	45分
11	人と関わる力を育む遊びの教材を作成する3	教材発表を通して、子どもの人と関わる力を育む保育者としての姿を自己評価・他者評価する。	発表の準備をする	45分
12	模擬保育の指導案の作成	人間関係に着目した保育指導案をグループで作成し、そのポイントについて学ぶ。	模擬保育の内容を考える	45分
13	模擬保育のグループワーク	グループで、保育者と子ども役を決め、模擬保育の練習をする。	模擬保育に必要な教材を準備す	45分
14	模擬保育の発表と振り返り	各グループの模擬保育を発表し、総括と指導案修正を行う。	模擬保育を振り返る	45分
15	まとめ	人と関わる力を育む保育の在り方について、これまでの授業内容を振り返り、自身の到達度を確認する。	これまでの学びの振り返り	45分

《専門教育科目》

科目名	保育内容「環境」の指導法		科目ナンバリング	509ST1101A
担当者氏名	高畑 芳美		担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選択
			開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

現代の乳幼児期を取り巻く環境やその関わりについて専門的事項を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容について理解を深める。環境を通して乳幼児の発達に即した深い学びが実現する過程を保育所、幼稚園、こども園等の実践事例から学ぶ。もの・人・自然・社会などの環境や環境の構成について興味関心を深め、領域「環境」に関わる指導場面を想定し、保育内容を構想する力や指導方法を身に付ける。

《テキスト》

実践例から学びを深める保育内容・領域「環境指導法」 小櫃智子編著 わかば社

《参考図書》

『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』及び要領解説書『事例で学ぶ保育内容 環境』無藤隆監修 萌文書林

《授業外学習》

幼児教育は「環境を通して行う教育」が基本である。環境に対する豊かな感性が育まれるように、特に自然環境、またその他、身の回りの環境にたえず関心をもち、領域「環境」への学びを深められるようフィールドワークを実施する。

《学習状況・理解度の確認》

身近な環境に興味関心が広がるように課題学習を実施する。実践事例を通して、ディスカッションやグループワークをし、他の学生の意見を聞いたり発表したりする中で自身の考えを深める。

《備考》

・現代の乳幼児を取り巻く環境に興味関心をもち、日頃から情報収集に努める。 ・科目担当者は幼稚園での保育経験のある実務経験者 ・Instructional Methods in Early Childhood Care and Education (Environment)

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』等の解説書を熟読し、各領域のねらい及び内容を理解する。
○	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	領域「環境」が乳幼児の発達、成長に及ぼす影響や意義を理解し、具体的な保育の構想に活用することができる。
◎	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	実践事例を通して幼児理解を深め、様々な実態、環境に応じた指導計画、指導案を作成し、指導を展開する力を身につける。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0%
小テスト	20%
レポート	30%
発表・実技	20%
授業内課題	30%
その他()	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション：環境とは	授業概要、授業目標、評価方法などを確認し、保育における子どもの環境について考える。	「身近な環境」について考える	45分
2	保育内容・領域「環境」	領域「環境」の理解を深める。「環境を通して行う教育」の意義について学ぶ。	Part 1 第2章の通読	45分
3	保育内容・領域「環境」の展開	乳幼児の発達と環境の関りを発達の特性から読み取り、「環境にかかわる力」を育てるために必要な保育者の援助を考える。	Part 1 第3章の通読	45分
4	保育の過程と子どもの理解	1歳以上3歳未満児と3歳以上児の領域「環境」のねらいと内容についてまとめる。	Part 1 第4章の通読	45分
5	ものとかかわりの実践	実際の保育現場に出かけ、保育の場にあるもの、保育に必要なものを考える。	Part 2 第1章の通読	45分
6	自然とかかわりの実践	園内マップを書いて発表し合う。	Part 2 第2章の通読	45分
7	数量・図形とかかわり①	グループで野菜スタンプの指導案を考えた活動の指導計画を立てる。	Part 2 第3章の通読	45分
8	数量・図形とかかわり②	模擬保育をやってみての結果をグループでまとめる。	模擬保育の振り返り	45分
9	標識・文字とかかわり	乳幼児の生活の中で物事の法則性に気付く場面やその他興味・関心をもつ場面について知り、指導の在り方を学ぶ。	Part 2 第4章の通読	45分
10	身近な日常生活における暮らし・文化とかかわり	地域資源について調べ、グループワークを通して学びを深める。	グループワークのまとめ	45分
11	行事とかかわり①	保育における行事について調べる。	Part 2 第7章の通読	45分
12	行事とかかわり②	行事は子どもにとって「発達」の節目となるもの、その在り方や参加の仕方を考え、発表する。	グループワークのまとめ	45分
13	小学校との連携・接続について	道徳の概念、道徳性を育む保育や保育者に必要な倫理観について考える。	Part 3 第2章の通読	45分
14	領域「環境」にかかわる現代的課題	ESDや多文化共生について理解する。	Part 3 第3章の通読	45分
15	学習の振り返りと確認	学習の振り返りをして、自己評価と理解度を確認する。全体講評(質疑応答)	レポートの振り返り	60分

《専門教育科目》

科目名	保育内容「言葉」の指導法		科目ナンバリング	509ST1111A
担当者氏名	石川 恵美		担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選択
			開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

子どもの言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域を関連させて理解を深める。その上で、子どもの発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導計画を想定して保育を構想する方法を身に付ける。PC等ICT機器を使用した指導計画や、成果物のパワーポイントを作成する。

《授業外学習》

子どもと関わる機会を作り、乳幼児期の子どもの「言葉」について興味を持ち、「言葉」の発達に理解を深めるように意識する。より多くの絵本に触れ、絵本のレパートリーを増やす。

《テキスト》

『新・保育と言葉』石上浩美編 嵯峨野書院 2022年

《学習状況・理解度の確認》

質問は、授業中・授業終了後に受け付ける。指導案は、添削しコメントを付して返却する。

《参考図書》

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』 他 適宜、授業内で紹介する。

《備考》

視聴覚教材等ICTを活用した授業およびディスカッション・プレゼンテーション・グループワーク等のアクティブラーニングの要素を含む授業を展開する。保育実践教室等で模擬保育を実施する。担当者は、保育士、幼稚園教諭として保育士、幼稚園教諭の資格取得

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	乳幼児の言葉の発達過程を理解し、言葉の機能について説明できる。
○	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を行う。
◎	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する	子どもの発達に応じた児童文化財の意義について理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	40%
小テスト	
レポート	20%
発表・実技	20%
授業内課題	20%
その他（ ）	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	領域「言葉」のねらいと内容とは。絵本の読み聞かせの意義について。	テキスト通読	45分
2	言葉の獲得に関する領域「言葉」と保育実践①	0.1.2歳の「保育内容・言葉」のねらい及び内容を理解し、保育実践について学ぶ。	テキスト通読	45分
3	言葉の獲得に関する領域「言葉」と保育実践②	3.4.5歳の「保育内容・言葉」のねらい及び内容を理解し、保育実践について学ぶ。	テキスト通読	45分
4	言葉の獲得に関する領域「言葉」と保育実践③	保育実践上の留意点と保育者の援助及び配慮について学ぶ。	テキスト通読	45分
5	言葉の獲得に関する領域「言葉」の記録と指導案づくり①	指導案作成上の留意点について学び、指導計画を立案する。	指導計画立案	45分
6	言葉遊びの体験	しりとりやなぞなぞ等、言葉に対する感覚を豊かにする言葉遊びを体験する。	言葉遊びについて調べる	45分
7	保育内容「言葉」と保育実践(1)	紙芝居の特徴や演じ方を学び、実践する。	紙芝居について調べる	45分
8	気になる子どもに対する「言葉」の支援	幼稚園・保育所における「言葉」の支援方法・実践事例について学ぶ。	テキスト通読	60分
9	これからの幼児教育の課題と保育内容領域「言葉」	小学校の教科等とのつながりを理解し、保育・教育環境を取り巻く現状と今後の課題について考える。	テキスト通読	60分
10	保育内容「言葉」と保育実践(2)	パネルシアターの特徴や演じ方を学び、実践する。	パネルシアターについて調べる	45分
11	言葉の獲得に関する領域「言葉」の記録と指導案づくり②	模擬保育を通して実践する。	模擬保育準備	45分
12	言葉の獲得に関する領域「言葉」の記録と指導案づくり③	模擬保育を通して実践し、評価・振り返りを行う。	模擬保育振り返り	45分
13	創作絵本等制作物発表会(1)	パワーポイントで作成した資料を提出した後、自作の創作絵本等の制作物を学友の前で発表する。	成果物発表準備	45分
14	創作絵本等制作物発表会(2)	自作の創作絵本等の制作物を学友の前で発表する。	成果物発表準備	45分
15	学習のまとめと振り返り	授業の内容を振り返り、到達目標の達成度を確認する。	到達目標の達成度を確認する	60分

《専門教育科目》

科目名	保育内容「表現」の指導法		科目ナンバリング	509ST1121A
担当者氏名	半田 結		担当形態	複担
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選択
			開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

保育内容の各領域が相互に関連しあっていることをふまえながら、身体・造形・音楽などの表現活動を中心に、子どもの実態に応じた保育内容の展開や指導法について学びます。身体の動きや五感、音、リズム、ものの色や形、質感など、身の回りにある表現のきっかけとなる様々なものや方法を通して、表現活動の特徴や面白さを確認しながら、それらの応用や展開、発展を考えていきます。子どもが主体的に取り組めるような総合的な表現活動を構想、計画、実践できる力を身につけます。

《授業外学習》

○子どもと直接関わる機会をもったり、子どもに関するニュースや書籍等を読んだりして、子どもを多面的に理解するよう努めましょう
○音楽や美術、ダンス、パフォーマンス、詩、文学など、自分の興味・関心のある分野について、積極的に調べたり楽しむようにしましょう

《テキスト》

文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018

《学習状況・理解度の確認》

毎回の授業ごとに、学習内容の確認と次回授業への準備・予習があります。提出物や課題に対してはコメントや評価をし、必要な場合は再提出を求めます。定期試験は実施しません。

《参考図書》

岡・金澤『演習・保育内容表現—基礎的事項の理解と指導法』建帛社、2019

《備考》

授業は、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを取り入れて行います。
Instructional Methods in Early Childhood Care and Education (Expressions)

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	こどもの発達や個性をふまえて、表現の多様性を理解している
○	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	領域「表現」のねらいやねらいや内容をふまえ、子どもが身につけていく内容と指導上の留意点を理解している
◎	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する	領域「表現」のねらいや内容をふまえつつ、子どもに応じた保育を構想・計画することができる

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	
発表・実技	40%
授業内課題	40%
その他()	20%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション 領域「表現」のねらいと内容	領域「表現」のねらいと内容について、子どもの表現をとして理解する	領域「表現」のねらいを理解す	45分
2	子どもの表現とその指導法①	子どもが遊ぶ（表現する）具体的な場面から、その表現の背景や要因を考える	映像資料を見て気づいたことを	45分
3	子どもの表現とその指導法②	子どもが遊ぶ（表現する）場面の考察を通して、子どもの表現がさらに広がる指導方法を考える	映像資料の背景について考える	45分
4	インクルーシブ保育における表現活動	様々なニーズのある子どもやインクルーシブ保育における、表現活動や遊びの可能性について考える	学んだことを整理する	45分
5	五感や身体を使った表現活動①	五感や身体を使った総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さを整理する	五感や身体を使った遊びを考	45分
6	五感や身体を使った表現活動②	総合的な表現活動の留意点や展開を考えると共に、インターネットで発信されている実践例から自らの保育構想の向上に取り組む	他の実践例を調べる	45分
7	音や声、楽器を使った表現活動①	声や音、楽器を使った総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さを整理する	音や楽器を使った遊びを考える	45分
8	音や声、楽器を使った表現活動②	総合的な表現活動の留意点や展開を考えると共に、インターネットで発信されている実践例から自らの保育構想の向上に取り組む	他の実践例を調べる	45分
9	身近にあるものを使った表現活動①	身近にあるものやリサイクル材を使った総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さを整理する	身近な物を使った遊びを考える	45分
10	身近にあるものを使った表現活動②	総合的な表現活動の留意点や展開を考えると共に、インターネットで発信されている実践例から自らの保育構想の向上に取り組む	他の実践例を調べる	45分
11	総合的な表現活動を考える①	総合的な表現活動を実践するために、指導案を作成する	指導案のテーマを考える	45分
12	総合的な表現活動を考える②	指導案に沿って、教材研究を深める	他の実践例を調べ指導案を作る	45分
13	総合的な表現活動を考える③	総合的な表現活動を指導案に沿って実践し、振り返りを行う	表現活動を実践する	45分
14	総合的な表現活動を考える④	総合的な表現活動の振り返りを通して、指導案の改善や展開を考える	指導案の振り返りを行う	45分
15	振り返りとまとめ	これまでに学んだことの振り返りを通して、保育の場における表現活動についてまとめる	学びの振り返りを行う	45分

《専門教育科目》

科目名	音楽 I	科目ナンバリング	509ST1311A
担当者氏名	立本 千寿子	担当形態	共担
授業方法	演習	単位・必修	1 ・ 選択
		開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

本授業では、個人レッスンと集団授業を組み合わせながら、幼児教育及び小学校教育の現場で必要となる音楽の基礎的な知識と技能を身に付けます。個人レッスンでは、個々のレベルに合った楽曲に取り組み、ピアノと弾き歌いの技能の修得を目指します。また、集団授業では、読譜に必要な知識を身に付けるとともに、独唱や合唱などの演習を通じて歌唱表現に関する知識と技能を修得します。

《テキスト》

初回授業時にレベルに応じてテキストを指示します。『大学ピアノ教本』教育芸術社、『標準バイエル教則本』全音楽譜出版社 等 ①～③のいずれかを使用。①『改訂 ポケットいっぱいのうた 実践 子どものうた 簡単に弾ける144選』教育芸術社 ②『こどものうた200』チャイルド本社 ③初等科音楽教育研究会編『初等科音楽教育法』音楽之友社、2020

《参考図書》

『ブルグミュラー25の練習曲』全音楽譜出版社 『ソナチネアルバム1』全音楽譜出版社

《授業外学習》

・音楽実技の向上には日々の練習が欠かせません。課題を確実に練習した上で、授業に臨みましょう。

《学習状況・理解度の確認》

・課題一覧表に基づいて、各自のレベルに応じた楽曲に取り組みます。毎回のレッスンの中で、アドバイスを伝えるとともに、成果発表後には、全体講評と個別の講評を行います。

《備考》

・ML教室及びレッスン室使用上の注意事項を厳守すること ・ICT活用双方向型授業です ・ペアやグループワークを取り入れます ・Music I

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	読譜に必要な知識を身につけるとともに、保育・教育現場で必要となる基礎的なピアノ技能及び歌唱技能を身につけてい
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	表現豊かなピアノ演奏や歌唱表現ができるよう、自分なりに工夫することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0%
小テスト	25%
レポート	0%
発表・実技	65%
授業内課題	10%
その他()	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	【個人レッスン】 個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】 楽典の理解度の確認	ピアノの練習と楽典の復習	120分
2	個人レッスンと楽典の理解①	【個人レッスン】 個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】 譜表と音名	ピアノの練習と楽典の復習	120分
3	個人レッスンと楽典の理解②	【個人レッスン】 個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】 音符と休符	ピアノの練習と楽典の復習	120分
4	個人レッスンと楽典の理解③	【個人レッスン】 個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】 拍子とリズム	ピアノの練習と楽典の復習	120分
5	個人レッスンと楽典の理解④	【個人レッスン】 個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】 音程・音階	ピアノの練習と楽典の復習	120分
6	個人レッスンと楽典の理解⑤	【個人レッスン】 個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】 コードネーム	ピアノの練習と楽典の復習	120分
7	個人レッスンと楽典の理解⑥	【個人レッスン】 個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】 コードネームを用いた伴奏付け	ピアノの練習と楽典の復習	120分
8	個人レッスンと楽典の理解⑦	【個人レッスン】 個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】 音楽記号、音楽用語	ピアノの練習と楽典の復習	120分
9	個人レッスンと楽典の理解⑧	【個人レッスン】 個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】 楽典のテスト	ピアノの練習と楽典の復習	120分
10	個人レッスンと歌①	【個人レッスン】 個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】 声の出し方	ピアノと歌の練習	120分
11	個人レッスンと歌②	【個人レッスン】 個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】 歌の表現方法について①	ピアノと歌の練習	120分
12	個人レッスンと歌③	【個人レッスン】 個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】 歌の表現方法について②	ピアノと歌の練習	120分
13	個人レッスンと歌④	【個人レッスン】 個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】 合唱と指揮法①	ピアノと歌の練習	120分
14	個人レッスンと歌⑤	【個人レッスン】 個別のレベルに応じたレッスン 【集団授業】 合唱と指揮法②	ピアノと歌の練習	120分
15	成果発表	ピアノ、弾き歌いの成果発表	ピアノと歌の練習	120分

《専門教育科目》

科目名	総合表現教育 I		科目ナンバリング	509ST13300
担当者氏名	半田 結		担当形態	共担
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選択
			開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

子どもたちの豊かな感性を育むには、保育者や教師自身の感性や表現力が重要です。「総合表現教育 I」では、音楽・造形・身体表現の領域や科目の枠組みに捉われない、感覚的な表現や総合的な表現を体験的に学ぶ中で、まずは諸感覚をひらき、学生自身の感覚や感性に気付くことを目指します。また、他者に自分の思いを表現したり、他者と共に表現したりすることを通して、自らの感性をさらに磨くとともに、コミュニケーション力や表現力の向上につなげます。

《テキスト》

適宜、プリントを配布する

《参考図書》

マリー・シェーファー・今田匡彦『音さがしの本 リトル・サウンド・エデュケーション』 春秋社 (1996年)

《授業外学習》

- 日ごろから、身の回りの事象に対して五感を働かせて感じ取るように心がけましょう。
- 芸術作品にも興味を持ち、自発的に鑑賞する機会をもちましょう。

《学習状況・理解度の確認》

授業毎にワークシートや振り返りの他に、事前課題と提出課題、発表があります。定期試験はありません。

《備考》

・授業は、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを取り入れて行います。・体験による学習を中心としますので、主体的かつ積極的な取り組みを期待します。・履修人数等により、授業内容が変更される場合があります。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	自分の感覚に気づくとともに、感じたことや思いを表現したり、伝えたりする力を身につけている。
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	子どもの表現を理解し、受け止めることができる。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	音楽・造形・身体表現に関する総合的な芸術表現を知り、多様な表現の可能性を探究することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0%
小テスト	0%
レポート	0%
発表・実技	40%
授業内課題	40%
その他 ()	20%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	総合表現教育 I の授業目的と内容を理解するとともに、現段階の自分の感覚や表現力を確認する	五感について調べる	45分
2	感覚をひらく①	音を介して	身の回りの様々な音を探す	45分
3	感覚をひらく②	人やものに触れて	身の回りの様々な触感を探す	45分
4	感覚をひらく③	ものを見て	目隠しをして一定時間過ごす	45分
5	感覚をひらく④	匂いや味を表して	身の回りの様々な匂いを探す	45分
6	身体をひらく①	音と動きで表す	手触りを楽しめるワークを考え	45分
7	身体をひらく②	身体で描写する	音を楽しめるワークを考える	45分
8	身体をひらく③	動く・動かされる	動きを楽しめるワークを考える	45分
9	自分をひらく①	感情を描写する	グループ作品の構想を練る	45分
10	自分をひらく②	感情を身体で表す	これまでを振り返る	45分
11	自分をひらく③	感情を音で表す	他者で行うワークを考える	45分
12	領域を横断して①	自分を表す作品を創作する	ワークの準備と振り返り	45分
13	領域を横断して②	自分を表す作品を完成させる	ワークの準備と振り返り	45分
14	領域を横断して③	各自の発表	発表の準備と振り返り	45分
15	まとめと振り返り	全15回を振り返り、今の自分の感覚や表現力を確認する	今後伸ばしたいところを確認する	45分

《専門教育科目》

科目名	総合表現教育Ⅱ		科目ナンバリング	509ST13400
担当者氏名	半田 結		担当形態	複担
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選択
			開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

「総合表現教育Ⅱ」では、「総合表現教育Ⅰ」での諸感覚を用いた感覚的な表現を基に、言語、自然、社会などを含めた他分野との領域横断的な表現を体験的に学びます。多様な表現活動を通して、学生自身の感受性、コミュニケーション力、表現力をより一層高めるとともに、子どもの未分化な表現を追体験しながら、幼小連携を意識した新しい表現方法や指導法を探求します。

《授業外学習》

・日頃から、身の回りの事象に対して、諸感覚を研ぎ澄まし、感じ取るように心がけましょう。
 ・芸術作品にも興味をもち、自発的に鑑賞する機会をつくりましょう。

《テキスト》

必要な資料やワークシートを適宜、授業内で配布します。

《学習状況・理解度の確認》

事前課題と提出課題、発表、授業毎の振り返りがあります。

《参考図書》

佐藤有紀『「感じ」が伝わるふしぎな言葉 擬音語・擬態語ってなんだろう』少年写真新聞社、2018
 清水満・小松和彦・松本健義『表現芸術の世界』明文書林、2010

《備考》

・授業は、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを取り入れて行います。
 ・体験による学習を中心としますので、主体的かつ積極的な取り組みを期待します。
 ・履修人数等により、授業内容の変更や場合がよりあります。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	自分の感覚を磨くとともに、感じたことや思いを豊かに表現できる力を身に付けている。
◎	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	こどもの心身の発達に伴う表現の変化やその対応を理解している。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	表現を広義に捉えるとともに、総合表現教育のあり方を理解し、多様な表現の可能性を探究することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	
発表・実技	40%
授業内課題	40%
その他()	20%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	総合芸術教育Ⅱの授業目的と内容を理解するとともに、現段階の自分の感覚や表現力を確認する。	表現遊びを考える	45分
2	感情とつながる①	出会いを楽しむ	表現遊びを実践する	45分
3	感情とつながる②	互いに感情を表現する	喜怒哀楽の表現を考える	45分
4	言葉とつながる①	オノマトペを感じる	オノマトペについて調べる	45分
5	言葉とつながる②	オノマトペを表現する	オノマトペを使った遊びを考	45分
6	言葉とつながる③	オノマトペを表現する(発表)	オノマトペを使った遊びの振	45分
7	世界とつながる①	世界の文字・あそび等を知る・調べる	世界の遊びを調べる	45分
8	世界とつながる②	世界の表現やアートを知る・調べる	世界のアートを調べる	45分
9	世界とつながる③	世界の表現やアートを知る・共有する	世界のアートを調べる	45分
10	領域を横断して	音楽・造形・身体表現・他の領域の共通要素を見つける	これまでの学びを振り返る	45分
11	自然・科学とつながる①	身の回りの自然やアートについて知る・調べる・共有する	身のまわりの現象を調べる	45分
12	自然・科学とつながる②	身の回りの自然や出来事を表現する(グループ練習①)	グループで表現を構想する	45分
13	自然・科学とつながる③	身の回りの自然や出来事を表現する(グループ練習②)	グループで表現を練習する	45分
14	自然・科学とつながるⅣ	身の回りの自然や出来事を表現する(グループ発表)	発表の準備と振り返り	45分
15	まとめと振り返り	これまでを振り返り、今の自分の感覚や表現力を確認する	伸ばしていきたい点を確認する	45分

《専門教育科目》

科目名	教師・保育者論	科目ナンバリング	509ST13501
担当者氏名	磯野 久美子	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必修	2 ・ 必修
		開講年次・開講期	3 年 ・ I 期

《授業の概要》

子どもを取り巻く今日的状況や課題について理解し、その変化に応じた保育のあり方を学ぶとともに、保育者の役割や専門性について理解する。幼稚園や保育所、子ども園等の施設で子どもとともに成長できる保育者のあり方を学ぶ。

《授業外学習》

テキストに目を通しておく。

《テキスト》

『子どもの未来を拓く 保育者論』名須川知子[編著]青踏社 2024

《学習状況・理解度の確認》

授業ごとに課題を提出し、その内容から学びの確認をする。

《参考図書》

文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

《備考》

科目担当者は、幼稚園教諭及び、保育士資格を持つ実務経験者である。Teacher and Childcare Teacher Theory

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-2 使命感と情熱をもって教育・保育を実践する力	子どもとともに成長できる保育者のあり方を学ぶ。
○	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	保育実践で得られた経験を授業内容と結びつけ理解を深める。
○	2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	社会を取り巻く今日的課題を踏まえ、保育者の専門性について理解を深める。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0%
小テスト	30%
レポート	0%
発表・実技	20%
授業内課題	30%
その他()	20%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の全体像を把握し、到達目標を理解する。	テキスト・資料の確認	45分
2	保育者とは	保育者の社会的位置づけや保育者に求められる資質について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
3	保育における基礎知識①	日本における保育の歴史の変遷について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
4	保育における基礎知識②	子どもにかかわる法律や条約について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
5	保育における基礎知識③	保育者の業務と一日の保育の流れについて学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
6	保育者の役割①	子どもの育ちを支えるために必要な保育者の役割や専門性について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
7	保育者の役割②	保育実践の振り返りや専門性の向上のための研修のあり方について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
8	保育者の役割③	保護者支援のあり方や子育て支援の現状について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
9	保育者の役割④	様々な保育ニーズに対応した専門機関との連携について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
10	子どもの育ちと保育①	乳児期の発達について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
11	子どもの育ちと保育②	幼児期の発達について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
12	保育の展開と実践力①	「遊び」を通じた保育の展開と実践力について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
13	保育の展開と実践力②	「絵本」から生まれた遊びと保育の展開について学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
14	保育の展開と実践力③	未来を見据えた取り組みについて学ぶ。	テキスト・資料の確認	45分
15	学びの振り返り、まとめ	学習内容の理解について、小テストを通じて確認を行う。	全体の振り返り	45分

《専門教育科目》

科目名	教育・保育の課程と評価		科目ナンバリング	509ST13600
担当者氏名	澤田 真弓		担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必修	2	・ 必修 開講年次・開講期 2 年 ・ I 期

《授業の概要》

教育・保育課程の意義と役割、カリキュラム・マネジメントの意義について学習する。カリキュラムの実践的な編成能力を養うため、各種指導計画等を検討する。

《授業外学習》

テキストの該当箇所および事前配布資料は熟読しておくこと。授業内容を丹念に振り返り、整理しておくこと

《テキスト》

岩崎淳子他『教育課程・保育の計画と評価』萌文書林2022年

《学習状況・理解度の確認》

提出物にはコメントを付して返却する。分からないことは随時質問を受け付ける。

《参考図書》

随時紹介する

《備考》

担当者は保育士、幼稚園教諭として勤務歴のある実務経験者。グループワークを行う。 Theory of Curriculum and Evaluation in Child Care and Education

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を	保育・幼児教育におけるカリキュラムの意義と役割が理解できる
○	3-2 自らの教育・保育実践を省察する力	教育・保育課程編成の原理と方法を理解できる
○	2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	年齢や集団に応じた指導計画が作成できる
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する力	各園や施設の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義が理解できる

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60%
小テスト	20%
レポート	0%
発表・実技	0%
授業内課題	20%
その他()	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	カリキュラムの基礎理論	教育活動におけるカリキュラムの意義と役割について学ぶ。	授業内容の振り返り	45分
2	幼稚園教育要領、こども園教育・保育要領について	幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領の特徴について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45分
3	保育所保育指針、こども園教育・保育要領について	保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の特徴について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45分
4	教育課程・保育課程の意義と役割	教育課程・保育課程が持つ意味とその役割について学ぶ。それぞれの編成方法について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45分
5	指導計画の意義	指導計画が持つ意味について学ぶ。各種指導計画の編成方法について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45分
6	指導計画の種類と役割	長期指導計画、短期指導計画の特徴と実践上の留意点について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45分
7	保育形態と保育方法	様々な保育形態について解説し、それぞれの特徴をいかした保育方法について紹介する。	テキスト、授業内容の振り返り	45分
8	保育の評価	保育評価の視点、評価の実践的な実施方法について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45分
9	保育の記録	保育記録の意義と役割、作成方法について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45分
10	長期指導計画の作成	指導計画作成の手順と留意点について実践的に学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	90分
11	作成した長期指導計画の具体的検討	作成された指導計画の検討を通して、活動計画立案の実践力を身につける。	配布資料、授業内容の振り返り	90分
12	短期指導計画の作成	指導計画作成の手順と留意点について実践的に学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	90分
13	作成した短期指導計画の具体的検討	作成された指導計画の検討を通して、活動計画立案の実践力を身につける。	配布資料、授業内容の振り返り	90分
14	カリキュラム・マネジメントの意義	カリキュラム・マネジメントが持つ意味、実際にカリキュラム・マネジメントを実施する際の留意点について学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45分
15	カリキュラム・マネジメントと保育カンファレンス	PDCAサイクルをいかした実践の省察や、研修、研究保育等の保育力向上のための取り組みについて学ぶ。	テキスト、授業内容の振り返り	45分

《専門教育科目》

科目名	幼児理解	科目ナンバリング	509ST1371A
担当者氏名	松田 信樹	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考える。

《授業外学習》

幼児教育や保育に関わる新聞報道などにも関心を持ち、子どもと子どもを取り巻く環境についての認識を深めてもらいたい。子どもを観察したり、子どもと関わる機会を作ったりすることで、子どもの内面に目を向けることを習慣化していこう。子どもを観察し、理解したことや感じたことを正しい日本語で記録することができるようになるために、日頃から語彙力の向上に努めること。

《テキスト》

『新しい保育講座③ 子ども理解と援助』 高嶋景子・砂上史子（編著） ミネルヴァ書房 2019

《学習状況・理解度の確認》

毎回の授業時に課す授業内課題の進行状況から学習状況と理解度を確認する。質問等には、授業終了後やオフィスアワーに対応する。

《参考図書》

『子ども理解と援助 - 子ども・親とのかかわりと相談・援助の実例 -』 名倉啓太郎（監修） 寺見陽子（編著） 保育出版社 2004

《備考》

Theories and Methods of Understanding Young Children 受講学生どうしのディスカッションやグループワークを交えて学習する。「先生」と呼ばれる専門職を目指していることを心得て、授業に臨むこと。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	環境との関りを通して子どもの発達が進むことを理解することができる
○	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	保護者の思いに共感的な理解を示し、子どもの成長に関わる心理的事実に基づいて支援ができるようになること
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	心理学の観点から、日々変化する子どもの心の動きについて理解することができる

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0%
小テスト	0%
レポート	10%
発表・実技	0%
授業内課題	60%
その他（ ）	30%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	幼児理解の重要性	子どもの内面世界に目を向けて行動の意味を理解することがいかに重要かに気付く。	プリントを用いての振り返り	60分
2	子どもを理解するとは（1）	子どもの何気ない行動に隠された意味を探る。	プリントを用いての振り返り	60分
3	子どもを理解するとは（2）	子どもの行為の意味を、状況要因を考慮に入れて考える。	プリントを用いての振り返り	60分
4	子どもを取り巻く環境の理解（1）	子どもを取り巻く環境を重層的に捉える。	プリントを用いての振り返り	60分
5	子どもを取り巻く環境の理解（2）	子どもの意欲を刺激する環境について考える。	プリントを用いての振り返り	60分
6	子どもを発達の観点から理解する（1）	子どもを見つめる大人の発達観について考える。	プリントを用いての振り返り	60分
7	子どもを発達の観点から理解する（2）	関係性の発達から子どもの発達を把握する。	プリントを用いての振り返り	60分
8	保育者に必要なカウンセリングマインド（1）	子どもと関わる保育者の基本的姿勢について、カウンセリングマインドの観点から考える。	プリントを用いての振り返り	60分
9	保育者に必要なカウンセリングマインド（2）	子どもを共感的に理解することの意味を考察する。	プリントを用いての振り返り	60分
10	子どもを観察し記録に残す	保育における観察と記録の重要性について理解する。	プリントを用いての振り返り	60分
11	保育カンファレンス	子どもの行動の意味を、他者の視点からとらえ直す。	プリントを用いての振り返り	60分
12	個と集団の育ち	個性化と社会化の両立をいかに図るかにについて考察する。	プリントを用いての振り返り	60分
13	子どもの特別なニーズ（1）	特別なニーズのある子どもに寄り添った保育の在り方を考察する。	プリントを用いての振り返り	60分
14	子どもの特別なニーズ（2）	特別なニーズのある子どもを共同体で支援する方策を考える。	プリントを用いての振り返り	60分
15	保護者支援のありかた	保護者支援の実際を様々な事例から理解する。	学習内容の総復習	120分

《専門教育科目》

科目名	特別支援教育 I		科目ナンバリング	509ST1491A
担当者氏名	杉田 律子		担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選択	開講年次・開講期
				2 年 ・ I 期

《授業の概要》

障害児保育・教育の歴史の変遷から特別支援教育の理念を学ぶ。障害特性や個別のニーズに合わせた配慮や教育の方法について学び、インクルーシブ保育について理解を深める。大人との1対1の関係や子どもたちがともに育つことへの視点をもった保育とはどのようなものであるのか、具体的な内容について知識を得ることとともに事例を通して理解をする。他機関との連携や家庭への支援・連携、保育にかかわる協働についても学び、子どもをともに育てることへの意義と方法を理解する。

《授業外学習》

特別支援教育への興味をもち、授業中に紹介した文献や障害児や児童虐待や貧困、外国籍の子どもなど特別な教育的ニーズのある子どもに関わる新聞報道に注目するなど、授業中にとりあげたテーマについて理解を深める努力をしてください。また、グループワークに積極的に取り組み能動的に学修に取り組んでください。

《テキスト》

『障害児保育—インクルーシブな保育に向けて—』太田俊己編著 (2022) 青踏社

《学習状況・理解度の確認》

毎回manabaを使用した小テストやまとめ学習の「学びの振り返り」を行い、次回授業開始時に講評。筆記テストでは、基本的な知識を問う問題と事例から支援方法を考え総合的な力を確認する。質問には「学びの振り返り」の記入と講評にて回答、またはオフィスアワーや授業の前後での質問に回答する。

《参考図書》

必要に応じて、参考文献を紹介する。

《備考》

担当者は早期療育指導員として聴覚特別支援学校内の難聴幼児早期療育教室で勤務歴のある実務経験者。各講義テーマごとに課題を設定し、グループワークやプレゼンテーション、PBL等のアクティブラーニングを導入。また、課題によっては個別の意見をスマートフォンを用いて集約、全員で共有するICT活用双方型授業を実施する。Special Needs Education I

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	特別の支援を必要とする幼児の障害の特性及び心身の発達を理解することができる
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	特別の支援を必要とする幼児に対する教育課程や支援の方法を理解することができる
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児の発達や又は生活上の困難とその対応を理解することができる
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	特別支援教育に関する理論や制度を理解することができる
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する力	集団保育と個別支援の方法を理解し、個々に適した合理的配慮を考えることができる

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	40%
小テスト	20%
レポート	
発表・実技	
授業内課題	30%
その他()	10%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション/特別支援教育の概要	ノーマライゼーション、インクルージョン、合理的配慮など概要を通して、『障害』や『特別支援教育』の理念について理解を深める	障害への自らの認識を振り返る	45分
2	特別支援教育の理解①障害児保育の歴史の変遷	障害児保育の歴史的な変遷を理解したうえで、障害のある子どもに対する支援と教育における保育施設の役割について学ぶ	テキスト1章、2章の通読	45分
3	特別支援教育の理解②インクルーシブ保育	インクルーシブな視点とはなにか、障害児保育が担う役割やインクルーシブ保育・教育にかかわる理念や仕組みを学ぶ。	テキスト1章、2章の通読	45分
4	子ども理解と個別支援	アセスメントの手法の理解。アセスメントの重要性と個別支援の計画	授業配布資料の通読、テキスト	45分
5	保育の専門性と専門機関との連携	障害児支援において乳幼児教育が果たす役割について。障害児支援の専門機関の理解	テキスト4章の通読	45分
6	保護者との連携・家庭支援	保護者の心理面への配慮、家庭支援の考え方について学ぶ、保護者との連携のあり方について考える	テキスト5章の通読	45分
7	障害児の理解と援助①知的障害	知的障害の特性を理解し、その特性に合った子どもへの援助について学ぶ	テキスト8章の通読	45分
8	障害児の理解と援助②自閉症スペクトラム障害	自閉症スペクトラム障害の特性を理解し、その特性に合った子どもへの援助について学ぶ	テキスト8章の通読	45分
9	障害児の理解と援助③ADHD	ADHDの特性を理解し、その特性に合った子どもへの援助について学ぶ	テキスト9章の通読	45分
10	障害児の理解と援助④発達障害全般、支援の基本姿勢	発達障害に特有の特性を理解し、保育の基本姿勢について考える	配布資料の通読	45分
11	障害児の理解と援助⑤教材づくり	発達障害の子どもに合った支援方法である「構造化」に基づいて教材を製作する。アクティブラーニング	教材の立案	45分
12	障害児の理解と援助⑥教材研究と事例検討	園における協力体制の構築の方法・連携の意義について学び、園内における事例検討による協働のプロセスについても理解をする	テキスト9章、事前配布資料の	45分
13	障害児の理解と援助⑦言語障害	言語障害など言葉に配慮が必要な子どもの理解とその特性に合った子どもへの援助について学ぶ	事前配布資料の精読	45分
14	障害理解教育①障害以外の特別支援が必要な事例研究	障害以外の特別支援が必要な事例を通して、合理的配慮の本質について考え、教師・保育者の役割について考える	事前配布資料の精読	45分
15	障害理解教育②事例研究と発表会	障害以外の特別支援が必要な事例を通して、合理的配慮の本質について考え、教師・保育者の役割について考える	これまでの授業内容を復習	90分

《専門教育科目》

科目名	特別支援教育Ⅱ	科目ナンバリング	509ST1501A
担当者氏名	杉田 律子	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選択
		開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

障害特性や個別のニーズに合わせた配慮や教育の方法について学び、インクルーシブ保育について理解を深める。乳幼児教育に携わる専門職として理解しておくべき知識と技術（『特別支援教育Ⅰ』で取り上げていなかった分野を中心に）を学び、事例を通して具体的な支援方法について考える力を養う。他機関との連携や家庭への支援・連携、保育にかかわる協働についても学び、子どもとともに育てることへの意義と方法を理解する。

《テキスト》

『障害児保育—インクルーシブな保育に向けて—』太田俊己編著 (2022) 青踏社

《参考図書》

授業内に随時紹介

《授業外学習》

特別支援教育への興味をもち、授業中に紹介した文献や障害児や児童虐待や貧困、外国籍の子どもなど特別な教育的ニーズのある子どもに関わる新聞報道に注目するなど、授業中にとりあげたテーマについて理解を深める努力をしてください。また、グループワークに積極的に取り組み能動的に学修に取り組んでください。

《学習状況・理解度の確認》

毎回manabaを使用した小テストやまとめ学習の「学びの振り返り」を行い、次回授業開始時に講評。筆記テストでは、基本的な知識を問う問題と事例から支援方法を考え総合的な力を確認する。質問には「学びの振り返り」の記入と講評にて回答、またはオフィスアワーや授業の前後での質問に回答する。

《備考》

担当者は早期療育指導員として聴覚特別支援学校内の難聴幼児早期療育教室で勤務歴のある実務経験者。各講義テーマごとに課題を設定し、グループワークやプレゼンテーション、PBL等のアクティブラーニングを導入。また、課題によっては個別の意見をスマートフォンを用いて集約、全員で共有するICT活用双方向型授業を実施する。Special Needs Education II

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	特別支援を必要とする幼児、障害の特性および心身の発達を理解し、特別支援を必要とする乳幼児の課題を理解する。
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	特別支援を必要とする幼児の課題を理解し、支援の方法を理解する。
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	子どもに適した支援方法を学び、教材研究の方向性を理解できる。家族への支援について考えることができる。
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	外国籍の子ども、家庭養護に問題がある子どもなど教育的ニーズのある幼児の困難さとその対応を理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	40%
小テスト	20%
レポート	
発表・実技	
授業内課題	30%
その他()	10%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	特別支援教育の再考①グループ学習	『特別支援教育Ⅰ』で学んだインクルーシブ保育や特別支援教育の意義の再考し、理解を深めるため、グループごとにノーマライゼーション、ICF、合理的配慮などの用語の意味や意義についての説明スライドを作成。アクティブラーニング	テキスト1、2章の通読	60分
2	特別支援教育の再考②グループ学習と発表・評価	講義(1)で作成したスライドを発表、互いに評価を行い合う中で、インクルージョンについての理解を深める。アクティブラーニング	発表スライドづくり	60分
3	保育施設内の支援体制づくり①協働	園における協働体制の構築の方法・連携の意義について学び、園内における事例検討による協働のプロセスについても理解をする	テキスト6章の通読	45分
4	保育施設内の支援体制づくり②保護者との連携	事例検討を通じて、保護者との連携を大切に支援体制づくりについて考える。アクティブラーニング	テキスト6章の通読。学習のまとめ	45分
5	発達障害の理解と援助①グループ活動	『特別支援教育Ⅰ』で学んだ発達障害をさらに理解するため、グループごとに障害の特性や基本的な支援の方法についての説明スライドを作成。アクティブラーニング	テキストの通読	60分
6	発達障害の理解と援助②グループ学習と発表・評価	講義(5)で作成したスライドを発表、互いに評価を行い合う中で、インクルージョンについて発達障害の子どもの特性と支援の方法の理解を深める。アクティブラーニング	発表スライドづくり	60分
7	障害児の理解と援助①肢体不自由、	肢体不自由などの障害の特性を理解し、その特性に合った子どもへの援助について学ぶ	テキスト10章の通読	45分
8	障害児の理解と援助②病弱、アレルギーなど	病弱、アレルギー、心疾患などの特性を理解し、その特性に合った子どもへの援助について学ぶ	テキスト10章の通読	45分
9	保健・医療機関との連携	医療的な支援の基礎的事項を理解し、医療機関での保育の取り組みについて学ぶ。病棟保育	配布資料の通読	45分
10	障害児の理解と援助③視覚障害	視覚障害の特性を理解し、その特性に合った子どもへの援助について学ぶ	各グループ調査、スライド作成	60分
11	障害児の理解と援助④聴覚障害	聴覚障害の特性を理解し、その特性に合った子どもへの援助について学ぶ	各グループ調査、スライド作成	60分
12	保育施設内の支援体制づくり③個別の教育支援計画	特別支援教育に関する教育課程、個別の指導計画及び個別の教育支援計画について	テキスト12章の通読	60分
13	専門機関との連携①グループ学習	福祉機関など地域の資源を活用した支援の方法について学ぶ。児童虐待、貧困、外国籍の子どもなどの問題など、障害以外の特別支援が必要な子どもの課題を理解するため、グループごとにその問題の概要や基本的な支援の方法についての説明スライドを作成。アクティブラーニング	スライド・発表原稿の作成	60分
14	専門機関との連携②グループ学習と発表・評価	講義(13)で学んだ障害以外の特別支援が必要な子どもの問題ををさらに理解するため、グループごとにその問題の概要や基本的な支援の方法についての説明スライドを作成。アクティブラーニング	テキスト15章の通読	60分
15	就学への支援・小学校との連携	障害のある子ども等の就学に関する諸問題、保護者支援について理解する。小学校および特別支援学校等との連携について学ぶ。乳幼児教育の施設の在り方について	学習のまとめプリント	60分

《専門教育科目》

科目名	ふれあい体験活動		科目ナンバリング	509ST31100
担当者氏名	大江 実代子		担当形態	共担
授業方法	実習	単位・必選	1	・ 選択
			開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

・本授業では、幼稚園・小学校において、子どもたちとのふれあいを中心とし、見学・観察・参加の体験を通して児童理解を深め、教員となる意欲と構えを養う。

《授業外学習》

・新聞、テレビ、Web等での教育に関する時事問題に関心を持ち、教師として問題を捉える。
 ・多角的な視点を持ち「子どもとのふれあい」について調べる。
 ・実習記録は毎日丁寧に記録する。

《テキスト》

授業時にハンドアウトを配布する。

《学習状況・理解度の確認》

・実習校において授業や行事の補助、子どもとのふれあいを通して、観察したことを記録する実習ノート、実習のまとめとして「学んだこと」(A4 1枚)を確認し返却する。

《参考図書》

文部科学省 (2018) 『幼稚園教育要領』、文部科学省 (2017) 『学習指導要領』

《備考》

・実習においては、事前学修で扱う実習生としてのマナー・ルール等を遵守する。学生個人の解釈でそれらを逸脱した場合は、単位取得に影響する。・指導者は実務経験有 (小学校教員・校長/保育士/幼稚園教諭) Interact experience activities

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-2 使命感と情熱をもって教育・保育を実践する力	教師は、子どもたちをよく観察し、意味を持って指示や促し・評価等、状況や場面により、様々な働きかけることを理解する。
○	1-1 豊かな人間性をもって人と関わる力	教師のことばかけ、子どもへのかかわり方などを直接見聞きすることで、愛情をもって子どもに接する大切さを理解する。
○	1-3 多様な人と協働し、地域社会に貢献する力	学校が運営されるには、学級担任だけでなく、養護、音楽などの専科や事務、用務などの様々な立場の人が責任をもって職務に当たっていることを理解することが重要。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試験	0%
小テスト	0%
レポート	40%
発表・実技	50%
授業内課題	10%
その他 ()	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	実習の目的	ふれあい体験活動の意義と目的を確認する。	意義と目的、実習への抱負をま	45分
2	実習の内容・流れ	心構え及び実習記録の形式を知り、何をどう観察するかを考える。関係書類の記載について確認する。	内容や流れを確認し、考察す	45分
3	子どもとのふれあい	子どもとのふれあい方についてグループワークで検討する。	遊びを中心にふれあいについて	120分
4	ふれあい体験活動 1	幼稚園・小学校において、主として、遊びを通して子どもたちの言動を観察する。	観察の視点を確認する。	45分
5	ふれあい体験活動 2	幼稚園・小学校において、主として、遊びを通して子どもたちの友だち関係などを観察する。	実習への心構えを確認する。	45分
6	ふれあい体験活動 3	幼稚園・小学校において、主として朝の会や終わりの会、給食などの学校生活の流れを観察する。	実習記録記載	60分
7	ふれあい体験活動 4	幼稚園・小学校において、主として特別活動の時間や特別の教科道徳の時間の学習の流れを観察する。	実習記録記載	60分
8	ふれあい体験活動 5	幼稚園・小学校において、主として授業を参観し、指導者 (教師) の発問や板書を観察する。	実習記録記載	60分
9	ふれあい体験活動 6	幼稚園・小学校において、主として授業を参観し、指導者 (教師) の発問や板書を観察する。	実習記録記載	60分
10	ふれあい体験活動 7	幼稚園・小学校において、主として授業を参観し、発問、指示を受けた子どもたちの反応を観察する。	実習記録記載	60分
11	ふれあい体験活動 8	幼稚園・小学校において、主として授業を参観し、発問、指示を受けた子どもたちの様子を記録する。	実習記録記載	60分
12	ふれあい体験活動 9	幼稚園、小学校において、自分なりの視点で観察を深める。	実習記録記載	60分
13	ふれあい体験活動 報告会1	ふれあい体験活動実習を通して学んだことをスライドにまとめ、プレゼンテーションする。	報告を聞き、学びを深める	60分
14	ふれあい体験活動 報告会2	ふれあい体験活動実習を通して学んだことをスライドにまとめ、プレゼンテーションする。	報告を聞き、学びを深める	60分
15	ふれあい体験活動 報告会3	ふれあい体験活動実習を通して学んだことをスライドにまとめ、プレゼンテーションする。	報告を聞き、学びを深める	60分

《専門教育科目》

科目名	インターンシップ I		科目ナンバリング	509ST31200
担当者氏名	大江 実代子		担当形態	共担
授業方法	実習	単位・必選	1 ・ 選択	開講年次・開講期
				2 年 ・ 通年

《授業の概要》

学校教育現場におけるインターンシップおよび事前事後の学内授業を通して、学問知（理論知）と実践知の往還を目指す。学校現場では、児童理解を一層深めるとともに、教員の役割や使命、職務を知る。また、指導の具体に触れ、指導者としての視点を学ぶ。特に、実習後に行う報告会では、他の学習者と指導のあり方について意見を交流することを重視し、次年度以降の教育実習・保育実習に生かすというプロセスを踏む。

《テキスト》

授業時にハンドアウトを配布する。

《参考図書》

文部科学省（2017）『幼稚園教育要領』，『小学校学習指導要領』
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

《授業外学習》

- ・新聞、テレビ、Web等での教育に関する時事問題に関心を持ち、教師の視点で問題を捉える。
- ・小学校、幼稚園教育の指導に関する文献にあたり、多角的な視点をもって、実習に臨む。
- ・実習記録は毎日丁寧に記録する。

《学習状況・理解度の確認》

- ・インターンシップにおいて学んだことを整理して、報告会において個々の学びを交流することで学びをさらに深化させ、次年度以降に実施される教育実習において発展させる。

《備考》

- ・実習においては、実習生としてのマナー・ルール等を遵守する。 学生個人の解釈でそれらを逸脱した場合は、単位取得に影響する。
- ・指導者は実務経験有（小学校教員・校長） Interact experience activities

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-3 多様な人と協働し、地域社会に貢献する力	地域の多様な人たちと関わりをもち、幼児や児童への言葉かけや行動に着目し、効果的な指導のあり方を探究して地域に貢献する力
○	1-1 豊かな人間性をもって人と関わる力	教育者としての自覚をもち、特別な配慮を要する幼児や児童の指導も含めて、効果的な指導のあり方を探究して、教育者に必要な力を身に付ける力
○	1-2 使命感と情熱をもって教育・保育を実践する力	教育者としての自覚をもち、保育や授業の準備物、板書、発問、言葉かけ等に注目して、幼児や児童の学びに学級経営が適切に関与することを知り、実践に活かせる力を身に付ける力

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	40%
発表・実技	50%
授業内課題	10%
その他（ ）	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	インターンシップガイダンス	インターンシップの心得として、意義、目的、留意事項を確認し、各種必要書類の作成を行う。	実施校について調べておく。	45分
2	指導者の視点	指導者がどのような心構えで授業を展開したり生徒指導を行ったりするのか、指導者の視点をキーワードに考える。	内容や流れを確認し、考察す	45分
3	インターンシップ実践1	幼稚園、小学校において、主として、クラス活動や授業を通して指導の具体を観察し、記録する。	遊びを中心にふれあいについて	120分
4	インターンシップ実践2	幼稚園、小学校において、主として、クラス活動や授業を通して指導の具体を観察し、記録する。	実習記録記載	45分
5	インターンシップ実践3	幼稚園、小学校において、主として、クラス活動や授業を通して指導の具体を観察し、記録する。	実習記録記載	60分
6	インターンシップ実践4	幼稚園、小学校において、主として、授業以外の時間帯における教員の子どもへの声かけや支援の様子を注視し、記録する。	実習記録記載	60分
7	インターンシップ実践5	幼稚園、小学校において、主として、授業以外の時間帯における教員の子どもへの声かけや支援の様子を注視し、記録する。	実習記録記載	60分
8	インターンシップ実践6	幼稚園、小学校において、主として、授業以外の時間帯における教員の子どもへの声かけや支援の様子を注視し、記録する。	実習記録記載	60分
9	インターンシップ実践7	幼稚園、小学校において、主として、校務分掌についてその職務内容を知り、責任のある仕事の進め方などを学び、記録する。	実習記録記載	60分
10	インターンシップ実践8	幼稚園、小学校において、主として、校務分掌についてその職務内容を知り、責任のある仕事の進め方などを学び、記録する。	実習記録記載	60分
11	インターンシップ実践9	幼稚園、小学校において、主として、担任外の専科や養護教諭等の職務内容を知り、責任のある仕事の進め方などを学び、記録する。	実習記録記載	60分
12	インターンシップ実践10	幼稚園、小学校において、主として、担任外の専科や養護教諭等の職務内容を知り、責任のある仕事の進め方などを学び、記録する。	実習記録記載	60分
13	インターンシップ実践11	幼稚園、小学校において、主として、担任外の専科や養護教諭等の職務内容を知り、責任のある仕事の進め方などを学び、記録する。	実習記録記載	60分
14	インターンシップ実践12	幼稚園、小学校において、主として、担任外の専科や養護教諭等の職務内容を知り、責任のある仕事の進め方などを学び、記録する。	交流を通して新たな気づきや発	60分
15	インターンシップ報告会	学んだことをスライドにまとめ、プレゼンテーションする。	交流を通して新たな気づきや発	60分

《専門教育科目》

科目名	子育て支援地域活動 I		科目ナンバリング	509ST31500
担当者氏名	磯野 久美子		担当形態	共担
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選択
			開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

地域子育て支援活動での実践を中心に経験を深め、実践的知識や技術につながる素地を培うことを目的とします。授業では、子育て支援の理念や制度、歴史的経緯、子育て支援の現状を学び、子育て支援活動での実践と併せて、地域や保護者のニーズに応じた子育て支援のあり方を理解します。

《授業外学習》

・子育て支援に関する社会的現状を、様々な情報を元に理解しておくこと。
 ・子育て支援活動に参加する際には、子育て支援に関わる者としての自覚や使命感をもって臨むこと。

《テキスト》

適宜、資料を配布する。

《学習状況・理解度の確認》

・授業や子育て支援活動の参加後に提出された小レポートは、コメントを添えて返却し、学びの状況を確認する。
 ・グループ単位での活動を主とするため、メンバーとの協働的な取り組みを評価する。

《参考図書》

《備考》

・担当者は、保育士・幼稚園教諭として勤務歴のある実務経験者である。
 ・PBL、グループワーク、実習を行う。 Parenting Support(Practice)

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	地域子育て支援活動の観察や環境構成などの実践を通して、子育て支援の実践力を身に付ける。
○	1-2 使命感と情熱をもって教育・保育を実践する力	地域子育て支援の実践力の基礎となる様々な課題や地域の子育て支援拠点の取り組みについて理解する。
○	1-1 豊かな人間性をもって人と関わる力	個々の保護者への個別対応を経験し、保護者のニーズを踏まえた子育て支援について理解する。
○	1-3 多様な人と協働し、地域社会に貢献する力	グループを組んで子育てに関する地域課題の発見に取り組む。
○	3-2 自らの教育・保育実践を省察する力	子育て支援活動での実践を振り返り、各自の課題を見出す。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	30%
発表・実技	40%
授業内課題	30%
その他()	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	子育て支援が求められる社会的背景	子育て支援が求められるようになった社会的背景や子育ての歴史について学ぶ。	配付資料の予習・復習	45分
2	保育者の専門性と子育て支援	子育て支援における子どもの最善の利益と保育者の倫理について学ぶ。	配付資料の予習・復習	45分
3	子育て支援活動への参加と学び	子育て支援活動への参加の仕方について学ぶ。	配付資料の予習・復習	45分
4	実践演習①	活動への参加を通して子育て支援の実践を学ぶ。	実践演習の振り返り	45分
5	実践演習②	活動への参加を通して子育て支援の実践を学ぶ。	実践演習の振り返り	45分
6	実践演習③	活動への参加を通して子育て支援の実践を学ぶ。	実践演習の振り返り	45分
7	実践演習④	活動への参加を通して子育て支援の実践を学ぶ。	実践演習の振り返り	45分
8	実践演習の中間振り返り	子育て支援活動に参加して得た学びを整理する。	活動の振り返りと次回の準備	60分
9	実践演習⑤	活動への参加を通して子育て支援の実践を学ぶ。	実践演習の振り返り	45分
10	実践演習⑥	活動への参加を通して子育て支援の実践を学ぶ。	実践演習の振り返り	45分
11	実践演習⑦	活動への参加を通して子育て支援の実践を学ぶ。	実践演習の振り返り	45分
12	実践演習⑧	活動への参加を通して子育て支援の実践を学ぶ。	実践演習の振り返り	45分
13	子育て支援の環境構成	演習を通して、子育て支援における環境の意義について知る。	環境構成の計画	60分
14	子育て支援の環境構成	演習を通して、子育て支援における環境の意義について知る。	実践演習の振り返り	45分
15	全体の振り返りとまとめ	授業全体の振り返りを行い、授業を通して得た学びを整理する。	レポート作成	120分

《専門教育科目》

科目名	子育て支援地域活動 I		科目ナンバリング	509ST31501
担当者氏名	澤田 真弓		担当形態	共担
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選択
			開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

地域子育て支援活動での実践を中心に経験を深め、実践的知識や技術につながる素地を培うことを目的とします。授業では、子育て支援の理念や制度、歴史的経緯、子育て支援の現状を学び、子育て支援活動での実践と併せて、地域や保護者のニーズに応じた子育て支援のあり方を理解します。

《授業外学習》

・子育て支援に関する社会的現状を、様々な情報を元に理解しておくこと。
 ・子育て支援活動に参加する際には、子育て支援に関わる者としての自覚や使命感をもって臨むこと。

《テキスト》

適宜、資料を配布する。

《学習状況・理解度の確認》

・授業や子育て支援活動の参加後に提出された小レポートは、コメントを添えて返却し、学びの状況を確認する。
 ・グループ単位での活動を主とするため、メンバーとの協働的な取り組みを評価する。

《参考図書》

《備考》

・担当者は、保育士・幼稚園教諭として勤務歴のある実務経験者である。
 ・PBL、グループワーク、実習を行う。 Parenting Support(Practice)

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	地域子育て支援活動の観察や環境構成などの実践を通して、子育て支援の実践力を身に付ける。
○	1-2 使命感と情熱をもって教育・保育を実践する力	地域子育て支援の実践力の基礎となる様々な課題や地域の子育て支援拠点の取り組みについて理解する。
○	1-1 豊かな人間性をもって人と関わる力	個々の保護者への個別対応を経験し、保護者のニーズを踏まえた子育て支援について理解する。
○	1-3 多様な人と協働し、地域社会に貢献する力	グループを組んで子育てに関する地域課題の発見に取り組む。
○	3-2 自らの教育・保育実践を省察する力	子育て支援活動での実践を振り返り、各自の課題を見出す。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	30%
発表・実技	40%
授業内課題	30%
その他()	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	子育て支援が求められる社会的背景	子育て支援が求められるようになった社会的背景や子育ての歴史について学ぶ。	配付資料の予習・復習	45分
2	保育者の専門性と子育て支援	子育て支援における子どもの最善の利益と保育者の倫理について学ぶ。	配付資料の予習・復習	45分
3	子育て支援活動への参加と学び	子育て支援活動への参加の仕方について学ぶ。	配付資料の予習・復習	45分
4	実践演習①	活動への参加を通して子育て支援の実践を学ぶ。	実践演習の振り返り	45分
5	実践演習②	活動への参加を通して子育て支援の実践を学ぶ。	実践演習の振り返り	45分
6	実践演習③	活動への参加を通して子育て支援の実践を学ぶ。	実践演習の振り返り	45分
7	実践演習④	活動への参加を通して子育て支援の実践を学ぶ。	実践演習の振り返り	45分
8	実践演習の中間振り返り	子育て支援活動に参加して得た学びを整理する。	活動の振り返りと次回の準備	45分
9	実践演習⑤	活動への参加を通して子育て支援の実践を学ぶ。	実践演習の振り返り	45分
10	実践演習⑥	活動への参加を通して子育て支援の実践を学ぶ。	実践演習の振り返り	45分
11	実践演習⑦	活動への参加を通して子育て支援の実践を学ぶ。	実践演習の振り返り	45分
12	実践演習⑧	活動への参加を通して子育て支援の実践を学ぶ。	実践演習の振り返り	45分
13	子育て支援の環境構成	演習を通して、子育て支援における環境の意義について知る。	環境構成の計画	60分
14	子育て支援の環境構成	演習を通して、子育て支援における環境の意義について知る。	実践演習の振り返り	60分
15	全体の振り返りとまとめ	授業全体の振り返りを行い、授業を通して得た学びを整理する。	レポート作成	120分